



最後の仕上げをして立派な門松が完成

地域みんなでいい正月を迎える準備 内子自治センターで恒例の門松づくり

「内の子ふれあい会門松づくり」(内子自治センター主催)は12月18日、同自治センターで行われ、管内の住民や高校生、内子児童館の子どもたちなど約70人が参加しました。子どもたちは竹の切り方や飾り付けの仕方を教わりながら、楽しそうに作業を進めていました。城戸裕成さん=内子高2年=は「地域の人々が優しく教えてくれて、いい門松ができた」と喜びました。



寿楽会から20人が参加し、優しく手ほどきをしていた

自分たちが作ったしめ縄で迎えるお正月 内子小と高齢者の皆さんが伝統文化で交流

高齢者と児童の交流を通して地域の文化を伝える「内子小学校5年生としめ縄作り」(内子自治センター主催)が12月21日、内子小学校で行われました。内子地区高齢者大学のメンバーの皆さんが縄の編み方を披露すると、食い入るように見つめる児童たち。自分たちの番になると、ごちない手つきながら楽しそうに作っていました。完成したしめ縄を手に、「早く玄関に飾りたい」と声を弾ませました。



1_ 忽那選手を囲んで記念撮影。生徒たちは「プロ選手はすごい。内面的にもたくさん学べた」と感動した様子だった 2_ 簡単だけど、よく効くトレーニング方法を教える忽那選手(手前)。生徒たちの悲鳴が響いていた

プロ選手に学んで課題解決の糸口に—— 愛媛FCが社会貢献活動で小田分校に協力

「アスリートから学ぶ心と体づくり講座」が12月22日、内子高等学校小田分校で開かれました。愛媛FCの忽那喬司選手と同アカデミーの寮母・石丸美奈子さんが講師となり、同校の生徒たちにボールを使ったトレーニングの方法や、手軽に作れる自炊メニューを教えました。

この講座は、課題解決のために意見交換や仲間づくりができる「エールラボえひめ」に小田分校が登録したことがきっかけとなりました。生徒たちがプロジェクト学習で取り組む、①キッチンカー「小田マルシェ」の新メニューの開発②簡単にできるトレーニングメニューの開発③寮で簡単にできる自炊メニューの開発——の3つを実現させることが最終目的。生徒たちは解決のヒントを得ようと、積極的に講師の2人に質問していました。

忽那選手は「生徒たちが元気いっぱい、逆に自分が元気ももらった。真っすぐな質問に対して、正直に真剣に答えた。これから就職や進学で壁にぶつかることもあると思うので、乗り越える力につながっていればうれしい」と話しました。

内子座に響く狂言の笑い 茂山千三郎狂言会「うちこの和らい」

茂山千三郎狂言会「うちこの和らい」(内子町文化創造事業実行委員会主催)が11月23日、内子座で開かれました。ネット配信も行われ、延べ約400人が観覧しました。

第1部には内子こども狂言くらぶが登場。3年度は子ども8人と大人5人の新入部員が加わり、計32人の部員が狂言の魅力伝えようと稽古に励んでいます。「かみあそび」や「蟹山伏」などの4演目と小舞を上演し、その成果を披露しました。第2部は茂山千三郎さんらのプロの狂言師による公演。「千鳥」「呼声」「鞆猿」の3演目が上演されました。「鞆猿」は狂言師を目指す子弟が、幼少時に初めて舞台上立つ演目としても知られています。今公演では、千三郎さんと長男の茂山郁馬くんが共演。猿役の郁馬くんのかわいらしい動きや、「きゃきゃ」という声に観客もつられて笑っていました。

初めて観覧した稲葉良恵さん=松山市=は「友達に誘われて来たけど、分かりやすくておもしろかった。子どもたちはよく声が出ていたし、表現も上手だった。目立つ子もいて、勝手にファンになった」と満足そうに話しました。



上_「かみあそび」の一場面。今年度から狂言を始めた子どもたちも、かわいらしい元気な姿で舞台を盛り上げていた 下_「鞆猿」では千三郎さんと郁馬くんの親子共演で観客を魅了した

全123ページにつづる地域の記憶と記録 中川自治会が『中川のあゆみ』を制作

中川地区の歴史と記録をまとめた冊子『中川のあゆみ』が、このほど完成しました。中川自治会の13人の編集委員が中心となり、約3年かけて制作。123ページにわたり地域の産業や文化の他、住む人々のふるさとへの思いも掲載しています。編集委員長の谷本功さんは「多くの人の協力で、懐かしさや新しい発見のある本になった。家族みんなで楽しみながら読んでほしい」と呼び掛けました。



できたての『中川のあゆみ』を手にする編集委員の皆さん

触れて感じる和紙の魅力と温かさ 地元作家に学べる「ものづくり体験」

和紙のよさを知る「ものづくり体験」が12月4・11・12日の3日間、五十崎風博物館で行われました。地元作家のわけみほさんと山田きよさんを講師に迎え、延べ16人の参加者が和紙のブローチ作りと、版画の技法を使った年賀状作りを体験しました。多比良佳希さん=内子小2年=は「お母さんと一緒に描いた絵を年賀はがきにした。刷る作業が上手にできて楽しかった」と笑顔でした。



シルクスクリーン版画で年賀状作りに挑戦する親子